



Newsletter

2019年3月発行

日本在宅ケア学会

No.12

一般社団法人日本在宅ケア学会
事務センター
〒162-0825
東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル
TEL:03-5206-7431
FAX:03-5206-7757

平成 30 年度講座だより

平成 30 年度学会活動推進委員会【リレー講座Ⅴ】

学会活動推進委員会セミナー

在宅において「食べること」を支える；
摂食・嚥下困難者の食べることへの
具体的な支援方法

講師：江頭 文江（地域栄養ケア PEACH 厚木
代表）

日時：2018年11月11日(日) 13:00～16:30
会場：レンタルキッチンスペース Patia
神保町店



ポリ袋クッキング



江頭先生と助手さん

と驚きの連続でした。

参加者は看護職，管理栄養士，言語聴覚士，介護職，学生，一般市民の12人と少なめでしたが，スペース的にはちょうどよい人数でした。参加者の平均満足度は4.9点（5点満点中）で，「ミキサー食で苦勞されている家族やヘルパーへ広めたい。調理のコツを具体的にたくさん聴けた。訪問時の情報提供内容，嚥下機能に合わせた調理方法，油をたす・つなぎの割合などの実践的な調理がわかった。市販品はじょうずにアレンジするとよい。油などの利用でエネルギーアップできる」などたくさんの学びが得られました。筆者も早速，日ごろの食事づくりで「ポリ袋クッキング」と「つなぎ」食材を生かした工夫をしている。

東京慈恵会医科大学医学部看護学科

梶井 文子

■講座を企画して■

本講座では，精力的に訪問栄養指導を実践されているカリスマ管理栄養士の江頭文江先生を講師に招き，摂食・嚥下困難のある療養者のための介護食の調理の工夫を，講義と調理の実演を交えながらの試食を行う，贅沢な講座を企画しました。調理過程で多様な「つなぎ」の食材を選択し加えることによって，滑らかな口当たりになり食べやすくなることや，やさしい味の料理になることを知りました。さらに「ポリ袋クッキング」で時間と手間の節約など，即実践に生かせる内容でした。江頭先生の始終説得力のある説明とともに，市販食品にアレンジを加えながらのスピーディな調理と試食に，新発見

緊急報告

平成 30 年 7 月豪雨で被災した訪問看護ステーションの
復旧への取り組み

平成 30 年 7 月西日本豪雨で被災した訪問
看護ステーションの復旧に寄せて

森下 幸子 (高知県立大学健康長寿センター)

平成 30 年 7 月上旬、愛媛、広島、岡山など西日本を中心に発生した豪雨災害は 200 人以上の人々の尊い命を奪い、いまなお多くの方々の健康と生活を脅かし、復興の途上にあります。

岡山県で被災した訪問看護ステーションは、浸水による全壊、半壊などの建物被害、車や必要物品、記録物の損失だけでなく、突然、利用者やその家族を失うという経験や、管理者やスタッフ自身も被災し命をつなぎ避難生活を続ける状況のなか、利用者や家族の災害後の支援にあたり、訪問看護を継続することで訪問看護ステーションの復旧に取り組んでおられます。

平成最後の年が明けて、被災した訪問看護ステーションから「もとの場所に帰り再開しました」の便りをいただくようになり、2月3日(日)に、真備町のそーる訪問看護ステーショ

ンを訪問させていただきました。事務所前のエンリッチカフェでは多くのボランティアと住民の方が、健康チェックや心と体のケアを受けながら、温かい飲み物とアヒージョを食べ、共に話し、共に歌い、節分の赤鬼が登場する豆まきイベントも行われていました。

過酷な状況のなかにあっても前に歩み続ける力や温かいネットワークに敬意を感じるとともに、「復旧」という言葉では表せない、「New Normal」なステーションの姿に感動を覚えました。

片岡奈津子代表は、「私たちは元に戻ることはありません、これからです」と語られ、多くの訪問看護ステーションが大切な命を失うつらい経験も、「私たちにとって、この災害の意味はなんだったのか」と客観的な視点でまとめ、在宅ケアの仲間に向けて発信も始められています。筆者自身もその言葉を受け止め、災害への備えなど訪問看護ステーションの支援ができればと思っています。



節分のイベント



中央が片岡代表



事務所前のトレーラーハウス

日本在宅ケア学会 新体制のご紹介

—平成 30～31 年度理事・監事一覧および委員会名簿—

◆理事長◆



亀井 智子
聖路加国際大学看護学部

日本在宅ケア学会理事長に再選していただき、身の引き締まる思いであります。前期に「在宅ケア実践の質の向上と推進に関するステートメント」を発出し、学会が担う8つの柱を取りまとめました。今期はこれに連動して特に、在宅ケア実践ガイドラインの作成に向けたシステムティックレビューの進行、「在宅ケアの研究力を高める」と題した連載、生涯教育セミナーの開催、論文賞の選考、実践・研究への助成、在宅ケアに関連する他団体（日本在宅ケアアライアンス、看保連、日本社会福祉系学会連合等）との連携強化を図ります。会員のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

◆副理事長◆



岡田 進一
大阪市立大学大学院生活科学研究科

このたび、副理事長を拝命いたしました大阪市立大学大学院生活科学研究科の岡田進一と申します。今回は、副理事長を拝命し、微力ではございますが、亀井理事長を支えながら、多くの職種の賛同を得て適切な学会運営をさせていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆理事◆



上野 まり
千葉大学大学院看護学研究科

日本看護系学会協議会を担当いたします。今年、平成から新たな時代に移行します。時代の変

化に伴う在宅ケアの変化をすばやくキャッチし、社会のニーズにタイムリーに呼応できる学会となるよう、努力したいと思っております。



牛久保美津子
群馬大学大学院保健学研究科

生涯教育委員会の担当理事を拝命いたしました。今年度からの2年間は、地域包括ケアシステムをテーマに研修会を開催する予定です。住み慣れた場所で、どの人も自分らしくすごせるような街づくりへの学会活動に貢献できたらと思っています。



加瀬 裕子
早稲田大学人間科学学術院

学会活動推進委員会委員長を拝命しました。学会員の研究や経験の交流を図る講演会やセミナーを計画し、学会外にも在宅ケアの普及活動を行います。2016年度から連続講座として行いました「在宅における食べることの支援」は、大変ご好評をいただきましたが、2019年7月の学術集会をもって終了します。委員会では、次のテーマを募集しておりますので、ご意見やご希望をお寄せください。



北川 公子
共立女子大学看護学部

前期に引き続き、理事を拝命しました。今期は、「総務」という役割を担うことになりました。亀井理事長、岡田副理事長はじめ役員のみなさま、ならびに学会事務センターと協力し、会務の充実に努めて参ります。



工藤 禎子
北海道医療大学看護福祉学部

それぞれの地域特性に応じた在宅ケア，どんな地域でも人々が安心，安全に暮らせる在宅ケアが大切と考えています。多職種で学び合える本学会の強みが生かせるように尽力したいと思いますので，よろしくお願い申し上げます。



河野あゆみ
大阪市立大学大学院看護学研究科
在宅看護学

実践・研究助成委員長を担当させていただくことになりました。生活の場で暮らす人々とともに多職種で手を取り合い，創意工夫のある在宅ケアが各地域で取り組まれています。在宅ケア実践・研究につながる芽を見つけ，学会で共有していただけることを願っています。



小西かおる
大阪大学大学院医学系研究科

学会誌の編集委員長として活動しています。第1回拡大編集委員会の開催，「在宅ケアの研究力を高める」の連載，海外の在宅ケアの紹介など，研究と実践の質の向上を目指し，新しいことにチャレンジし続けます。



佐藤美穂子
公益財団法人日本訪問看護財団

在宅ケアの主戦力のひとつである，訪問看護ステーション数も全国に11,000か所を超えました。医療の専門知識をもって頻回に訪問し，医療と生活を統合して予防から看取りまで支える訪問看護師をさらに増やし，多職種と連携して地域共生社会の実現に貢献したいと考えています。



下田 信明
東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科

現在，学会活動推進委員会，ガイドライン作成委員会の委員として活動しております。学会活動推進委員会においては，会員や一般市民のみなさまの役に立つ公開講座を企画します。ガイドライン作成委員会においては，臨床において役に立つガイドラインを作成します。みなさまからのご意見・ご指導をいただければと存じます。



白澤 政和
桜美林大学大学院老年学研究科

地域共生社会の実現が求められるなかで，日本在宅ケア学会の役割がますます重要になっています。すべての世代であるだれもが役割をもって生活していける社会の創造のために，理事として，また会員としてがんばっていきたいと思っています。



瀧澤 利行
茨城大学教育学部

引き続き倫理委員会でお世話になります。公衆衛生学の分野でも社会的弱者の健康権の擁護を中心に研究してきました。特に実践分野での研究は，研究倫理にさらに理解を広めていく必要があると思われまます。永田委員長の下でさらに微力を傾注したいと思います。よろしくお願いいたします。



谷垣 静子
岡山大学大学院保健学研究科

このたび，日本在宅ケア学会理事を拝命いたしました岡山大学大学院保健学研究科の谷垣静子と申します。本学会では，実践・研究助成委員会委員をさせていただくことになりました。微力ですが，みなさまのご指導ご鞭撻，ご協力をいただきながら学会活動に貢献していきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



辻 彼南雄

水道橋東口クリニック

今期は論文賞選考委員会委員長，ガイドライン作成委員会委員，編集委員会委員を担当いたします。在宅ケアの現場で働くケアラーの視点から，学会事業のお手伝いをさせていただきます。在宅ケアの最前線で働く多職種のみなさんにもっと入会していただけるような学会を目指したいと思っております。みなさんのご意見をお聞かせください。



長江 弘子

東京女子医科大学看護学部

今期は引き続き，会計，学会活動推進委員会，政策提言委員会，看保連に所属し活動します。特に看保連は看保連理事として介護報酬のあり方検討委員長を拝命しました。この機会を学会活動に有効活用し，平成32年度の介護報酬同時改定に向けて政策提言委員会と協働し在宅ケア推進のために活動していきたいと考えます。会員のみなさまのご意見も反映したいと思っておりますので，ご協力のほど，お願い申し上げます。



永田 智子

慶應義塾大学看護医療学部

このたび，理事および倫理委員会委員長を仰せつかりました永田です。多様なバックグラウンドの方々から構成され，現場からの発信も多い在宅ケア学会ならではの，研究等に関する倫理上の課題に，随時取り組んでまいりたいと思っております。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



福井小紀子

大阪大学大学院医学系研究科

このたび，日本在宅ケア学会理事を拝命いたしました大阪大学大学院医学系研究科地域包括ケア学・老年看護学の福井小紀子と申します。本学会では，

政策提言委員会の委員長をさせていただくことになりました。在宅ケアへの期待が高まるなか，エビデンスベースドの政策につながる活動展開を目指します。今後ともよろしくお願い申し上げます。



古瀬みどり

山形大学大学院医学系研究科

このたび初めて日本在宅ケア学会理事を拝命いたしました。編集委員会の一員として活動して参ります。在宅ケアの知の蓄積につながるよう微力ながら役割を果たしていきたいと思っております。



森下 安子

高知県立大学看護学部看護学科

今回，広報委員長を担当させていただくことになりました。在宅ケアの発展に向け，学会活動の紹介や先駆的な実践活動等について情報発信していきたいと考えております。会員のみなさまからもぜひ先駆的な実践活動等の情報をいただければ幸いです。

◆監事◆



金川 克子

特定非営利活動法人いしかわ在宅支援ねっと

在宅で療養を希望する人は，病気の種類にもよりますが，一般に多いと考えられる。しかし，介護力をはじめ，多くのことがクリアされなければ，困難を伴う場合がある。在宅で療養する場合の相互の工夫について会員とともに考える場になればと思う。



村嶋 幸代

大分県立看護科学大学，東京大学名誉教授

地域包括ケアが重視されるようになり，在宅ケア学会の役割はますます重要になっています。多くの職種が集えるという強みを生かして発展できるように期待しています。

◆委員会新体制名簿◆

<編集委員会>

委員長：小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科）

委員：石橋みゆき（千葉大学大学院看護学研究科），牛久保美津子（群馬大学大学院医学研究科），加瀬 裕子（早稲田大学人間科学学術院），小長谷百絵（上智大学総合人間科学部看護学科），久篠 奈苗（東京家政大学健康科学部），杉澤 秀博（桜美林大学大学院老年学研究科），棚橋さつき（高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科），辻 彼南雄（水道橋東口クリニック），永田 智子（慶應義塾大学看護医療学部），古瀬みどり（山形大学医学部看護学科），増田 和高（武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科）

<学会活動推進委員会>

委員長：加瀬 裕子（早稲田大学人間科学学術院）

委員：尾崎 章子（東北大学大学院医学系研究科老年・在宅看護学分野），梶井 文子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科），河野あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科在宅看護学領域），下田 信明（東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科），長江 弘子（東京女子医科大学看護学部），山田 雅子（聖路加国際大学大学院看護学研究科）

<広報委員会>

委員長：森下 安子（高知県立大学看護学部看護学科）

委員：川上 理子（高知県立大学看護学部），黒田 研二（関西大学人間健康学部），竹生 礼子（北海道医療大学看護福祉学部看護学科）

<倫理委員会>

委員長：永田 智子（慶應義塾大学看護医療学部）

委員：小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科），杉澤 秀博（桜美林大学大学院老年学研究科），瀧澤 利行（茨城大学教育学部）

<政策提言検討委員会>

委員長：福井小紀子（大阪大学大学院医学系研究科）

委員：黒木由美子（社会医療法人財団石心会在宅事業部），佐藤美穂子（公益財団法人日本訪問看護財団），清水 準一（東京医療保健大学千葉看護学部看護学科），長江 弘子（東京女子医科大学看護学部）成瀬 昂（東京大学大学院医学系研究科），藤田 淳子（順天堂大学医療看護学部），吉江 悟（東京大学高齢社会総合研究機構）

<論文賞選考委員会>

委員長：辻 彼南雄（水道橋東口クリニック）

委員：岡田 進一（大阪市立大学大学院生活科学研究科），亀井 智子（聖路加国際大学大学院看護学研究科），小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科），白澤 政和（桜美林大学大学院老年学研究科）

<実践・研究助成委員会>

委員長：河野あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科在宅看護学領域）

委員：白井みどり（大阪市立大学大学院看護学研究科），諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科），竹本与志人（岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科），谷垣 静子（岡山大学大学院保健学研究科）

<生涯教育委員会>

委員長：牛久保美津子（群馬大学大学院医学研究科）

委員：工藤 禎子（北海道医療大学看護福祉学部看護学科），河野あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科在宅看護学領域），福島 道子（徳島文理大学大学院看護学研究科）

<ガイドライン作成委員会>

委員長：亀井 智子（聖路加国際大学大学院看護学研究科）

委員：岡田 進一（大阪市立大学大学院生活科学研究科），尾崎 章子（東北大学大学院医学系研究科），加瀬 裕子（早稲田大学人間科学学術院）下田 信明（東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科），辻 彼南雄（水道橋東口クリニック）

平成 30 年度日本在宅ケア学会論文賞受賞に寄せて
—優秀論文賞受賞者，奨励論文賞受賞者より—

◆平成 30 年度日本在宅ケア学会優秀論文賞



村山 佳代

早稲田大学人間科学学術院

■受賞論文 原著

在宅ケアと損害賠償責任

村山 佳代 (早稲田大学人間科学学術院)

[日本在宅ケア学会誌 Vol.21 No.2 掲載]

このたびは，優秀論文賞をいただき，誠にありがとうございます。かように名誉な賞をいただけたことがいまだに信じられません。ていねいなコメントをくださった査読者の先生方に心より御礼を申し上げます。

今回受賞した論文は，認知症者の徘徊による事故のみを対象に，介護者の損害賠償責任について研究をいたしました。今後は，転倒，失火，自動車事故，また虐待問題など研究領域を広げ，在宅で暮らす高齢者・障害者，介護者の一助となる研究ができるよう努めてまいります。この度の受賞を励みに，今後も，法学的視点から在宅ケアに資する研究ができるよう精進いたします。

◆平成 30 年度日本在宅ケア学会奨励論文賞



堀口 和子

兵庫医療大学看護学部

■受賞論文 研究

独居高齢者の在宅エンド・オブ・ライフに影響する要因；独居高齢者の意思・別居家族の意向と心構え

堀口 和子 (兵庫医療大学看護学部看護学科)

岩田 昇 (広島国際大学心理学部心理学科)

小林 澄子 (塚口訪問看護センター)

鈴木 千枝 (兵庫医療大学看護学部看護学科)

仁科 祐子 (鳥取大学医学部保健学科)

谷垣 静子 (岡山大学大学院保健学研究科)

[日本在宅ケア学会誌 Vol.21 No.1 掲載]

このたびは日本在宅ケア学会奨励論文賞を賜り，大変光栄に存じます。本研究にご協力くださいました訪問看護師，ご指導いただきました査読者に心より感謝申し上げます。

本研究は，住み慣れた自宅で最期を迎えたいと希望する独居高齢者が，どのような理由や心構えでいるのか，別居家族の意向や心構えはどのようなものか，別居家族の支援は独居高齢者のエンド・オブ・ライフに影響するのか否かを明らかにしたものです。高齢単独世帯者が増加するなか，ひとり暮らしであっても希望が叶うように研究活動を継続していき，在宅ケアの発展に貢献していきたいと考えております。

各種ご案内

ニュースメール配信用 メールアドレス登録のお願い

本学会では、会員のみなさまへ迅速に情報提供を行うために、「ニュースメール」（不定期／年数回）を配信しております。未登録の方は会員専用サイトにて登録情報入力フォームよりご登録いただくか、会員登録事項変更届のご提出をお願い申し上げます。

実践および研究助成金について

■第6回実践・研究助成金募集結果■

＜平成31年度助成者＞ ※助成額：各20万円資格

◇No.19-001「訪問看護ステーションを長期にわたり安定・維持・向上に導いた所長の経営

管理活動プロセスに関する研究」

戸塚 恵子（杏林大学保健学部）

◇No.19-002「積雪寒冷地において慢性閉塞性肺疾患の急性増悪を来す高齢者に対する効果的なセルフマネジメント支援の検討」

平山 憲吾（北海道大学大学院保健科学研究所）

◇No.19-003「在宅療養腎移植患者におけるセルフマネジメントがQOL・腎機能に及ぼす影響の検討」

池田 直隆（大阪市立大学大学院看護学研究科）

■第7回実践および研究助成募集について■

募集期間：2019年10月1日～11月30日（予定）

応募資格：実践および研究代表者は当学会員（入会手続きが完了している者）であり、該年度の会費を振り込んだ者。

※詳細が決定次第、学会ホームページに掲載予定。

第24回日本在宅ケア学会学術集会のご案内

- テーマ：いのちと暮らしを支える在宅ケアのパイオニア・スピリット
- 学術集会長：尾崎 章子（東北大学大学院医学系研究科 老年・在宅看護学分野）
- 会期：2019年7月27日（土）、28日（日）
- 会場：仙台国際センター
〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地

●主なプログラム（予定）

○7月27日（土）9：10～17：30

■学術集会長講演「いのちと暮らしを支える在宅ケアのパイオニア・スピリット」

■シンポジウム

- 1「人口減少地域での看取りをどう支えるか」
- 2「災害時の在宅ケア—軌跡からの学びと来たるべき災害への備え—」
- 3「当事者とともにつくる Dementia Friendly Community」

■教育講演

- 1「やってみよう！混合研究法へのいざない」

■ランチョンセミナー

■委員会企画

- 1「学会活動推進委員会」
- 2「政策提言検討委員会」

■口演発表、ポスター発表

○7月28日(日) 9:00～15:45

■特別講演「その人らしい生を支えるケアとは—臨床死生学の視座から—」

■教育講演

- 2「地域包括ケアにおける高度実践看護師の役割を展望する」
- 3「在宅ケア実践におけるライフレビューの可能性」

■ワークショップ

- 1「生活と医療を統合する継続看護マネジメント」

■市民公開講座

- 1「【鼎談】最期まで私らしく生き抜くために今から考えてみませんか。—仙台での取り組みから—」
- 2「孤立とセルフ・ネグレクト —身近な人のSOSに気づくには—」

■ランチョンセミナー

■委員会企画

- 3「ガイドライン作成委員会」

■口演発表, ポスター発表

■2019年度論文賞受賞者記念発表

■会員報告会

事前参加（学術集会・懇親会）申込締切日：2019年6月7日（金）

●事前参加申込方法

インターネットからのオンライン登録となります。

- ・第24回在宅ケア学会ホームページの参加申込ページより登録を行ってください。
URL：https://jahc24.com/entry/index.html
- ・参加申込画面に従って必要事項を入力し、お支払い方法を選択してください。お支払方法は、クレジットカード決済、銀行決済・コンビニ払いのいずれかをご選択ください。
- ・ご入金期限は2019年6月14日（金）です。入金の確認をもって、正式受付とさせていただきます。期日までに入金を確認できない場合、事前参加登録はキャンセルとなり、当日参加受付でご参加いただくこととなります。

●当日参加申込方法

当日、会場受付にて参加申込書に必要事項をご記入のうえ、参加費を添えてご登録ください。

●参加費

	2日参加 (抄録集1冊含む)		1日参加 (抄録集なし)	
会 員	[事前] 8,000円	[当日] 10,000円	[当日]	-
非 会 員	[事前] 10,000円	[当日] 12,000円	[当日]	6,000円
大学院生 ^{*1*2}	[事前] -	[当日] 4,000円	[当日]	-

*1 抄録集なし/大学院生の方は、学生証の提示が必要となります。

*2 社会人大学院生の方は、会員又は非会員でのご登録をお願いいたします。

◆お問い合わせ◆

第24回日本在宅ケア学会学術集会運営事務局

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-4-1 4F 株式会社JTB 仙台支店内

TEL: 022-263-6716 FAX: 022-263-7481 E-mail: jahc@jtb.com